

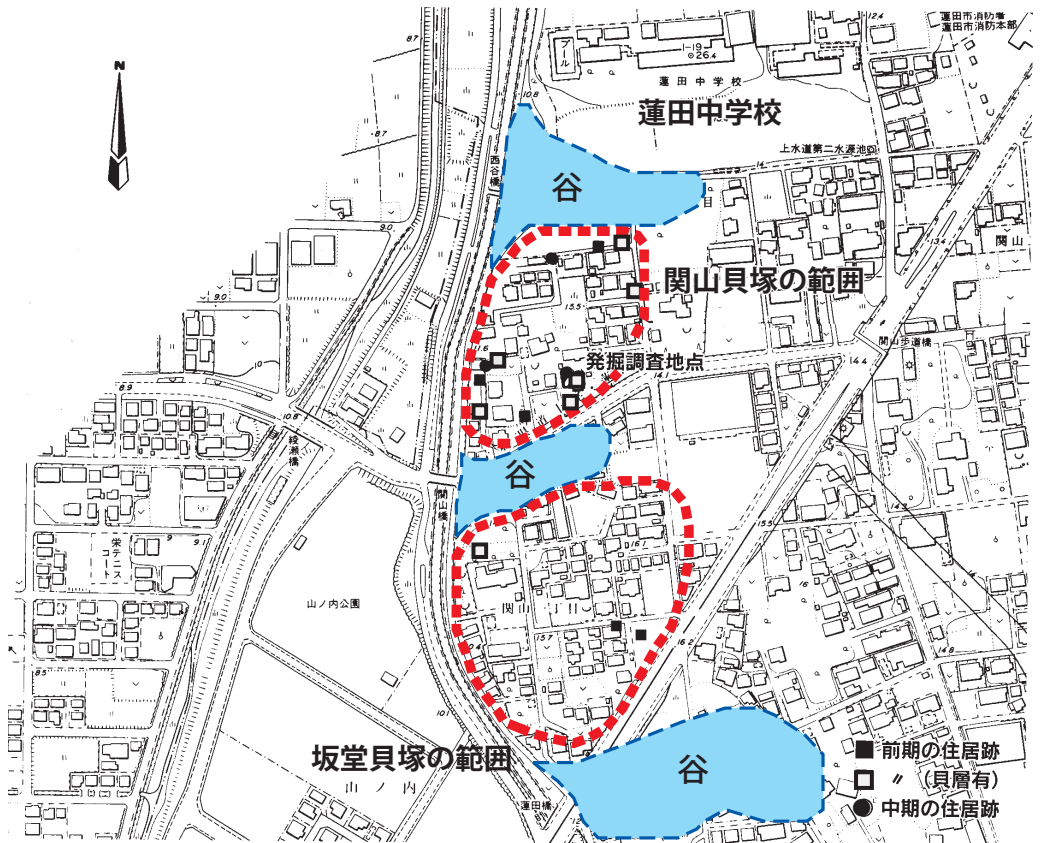
関山貝塚 (せきやまかいづか)

関山貝塚は、関山 1 丁目の蓮田中学校の南側、さいたま・栗橋線の西側から見沼代用水にかけて所在します。規模は東西約 210m、南北約 460m、面積約 95,000 m²を測ります。南側と北側は谷に面し、人々の水汲み場になっていたと想像されます。また、南側の谷を隔てた台地上には、坂堂貝塚が存在します。

現在までに縄文時代前期(関山式期)の住居跡 9 軒、炉跡 1 基、中期(加曾利 E 式期)の住居跡 3 軒、集石土坑 1 基が検出され、前期(関山式期)の貝塚(ハイガイ主体・マガキ・ヤマトシジミ)も 6ヶ所発見されています。

遺跡からは縄文時代早期の土器や市内では数少ない縄文時代最終末の土器(千網式土器)や、中世のかわらけなどの遺物も発見され、幅広い時期に生活が営まれていたようですが、縄文時代前期に最盛期を迎えています。

特に、代表的な土器 8 点が県指定有形文化財(考古資料)に指定されています。



関山貝塚航空写真 (埼玉県教育委員会)

関山貝塚とは…?

貝塚からは、貝類のほかに哺乳類(ニホンジカ・イノシシ)、鳥類(ガン・カモの一種)、魚骨(ボラ・スズキ・クロダイ・コチ・ウシノシタの一種)、頭足類(コウイカ?)も発見されています。

関山貝塚は明治時代から知られ、1928年(昭和3年)、大山史前学研究所が発掘調査し、出土した土器を「蓮田式」として位置づけて以来注目され、1938年(昭和13年)に山内清男によって、「蓮田式」から花積下層式⇒関山式⇒黒浜式へと細分された学史上著名な遺跡です。

のじまきどき
野島式土器：縄文時代早期後半

約 7,500 年前の縄文時代の土器で、下地には縄文の替わりに「条痕文」と呼ばれる貝殻を



引いた模様が付けられ、その上には「微隆起線」と呼ばれる粘土の紐で、縦横斜めに模様が装飾されています。

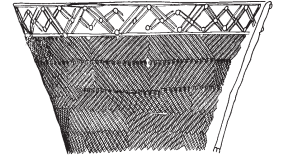
びりゅうきせん



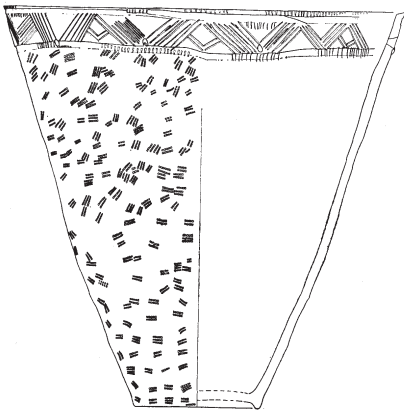
1号住居跡出土品（縄文時代前期前半） **県指定考古資料**

1号住居跡から一括して出土したもので、縄文時代前期前半の文様や縄文などに関山式土器の伝統を色濃く残しています。前述のように研究が進む前は、蓮田式土器と呼ばれていたものが、花積下層式（春日部市）⇒関山式⇒黒浜式に分かれ、関山式はその真ん中の時期に位置付けられました。

関山式土器の特徴は、縄文土器の中でも最も多くの種類の縄文が**装飾されていること**で、縄文装飾の最高傑作とも言えるものが縄文時代前期に完成していたといえるでしょう。



③ 深鉢（県指定）

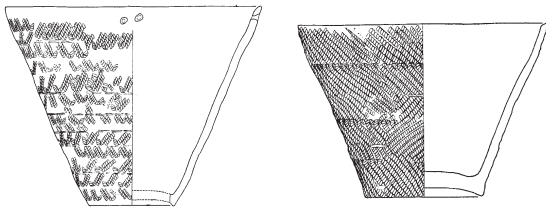


鋸歯状文（きょしじょうもん）②, ③, ⑥

表現された模様としては、三角形が上下交互に合ようかくじょうもんわさり菱形状の模様わらびてじょうもんが表現されています。「羊角状文（羊の角のような模様）①」、**「蕨手状文（山菜のワラビの先端のような模様）」**と共に、関山式土器の代表的な模様の一つと言えます。

また、②の土器では、縄文ではなくハイガイなどの貝殻の背中により、「**擬似縄文**」と呼ばれる縄文風の模様を描き出しています。

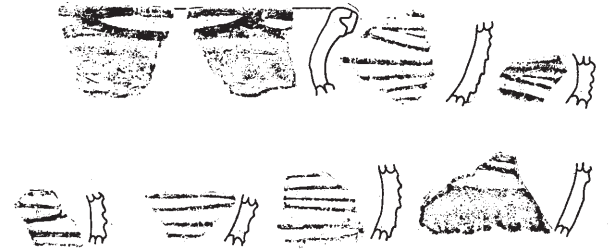
② 深鉢（県指定）



④ 深鉢（県指定）

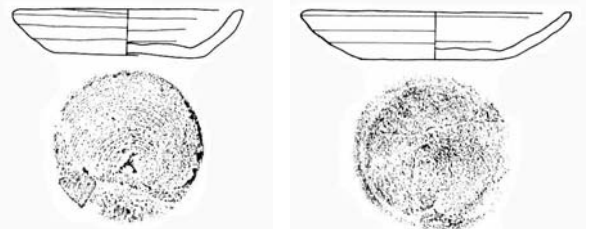
⑤ 深鉢（県指定）

⑥ 深鉢（県指定）



千網式土器（ちあみしきどき）

市内ではごく稀な縄文時代晩期末葉の土器で、現在のところ市内で唯一、関山貝塚で発見されているものです。

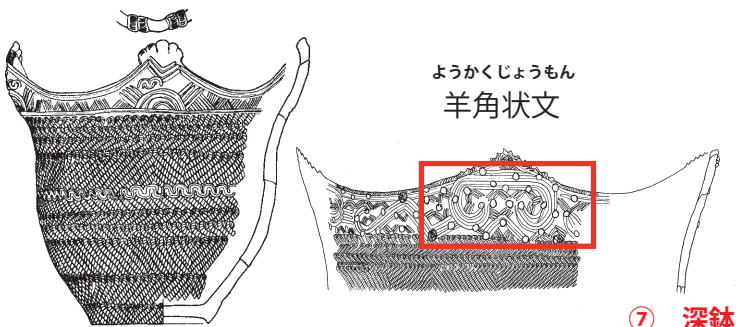


かわらけ：中世末～近世初頭

最も新しい痕跡で 22 点発見されています。「かわらけ」とは、素焼きで**釉薬**のかけられていないもので、戦国時代には武士が戦いに出向く前の儀式に、また土器を投げて厄を落としたり、**燈明皿**としてなど、様々なことで利用されています。

【引用参考文献】

埼玉県埋蔵文化財調査報告第3集 関山貝塚 埼玉県教育委員会
埼玉県蓮田市文化財調査報告書第31集 関山貝塚一第2調査地点一
埼玉県蓮田市文化財調査報告書第45集 関山貝塚一第4調査地点一
蓮田市教育委員会



ようかくじょうもん
羊角状文

⑦ 深鉢

① 深鉢（県指定）

私のデザインは、この2つの土器からとったものよ！

①からは**フロポーション**（形）を…
⑦からは「**羊角状文**」と呼ばれる「羊の角」のような模様を…！これは関山式土器の特徴的な模様の一つで、私の顔の周りの模様なの…！



ドッキーナ